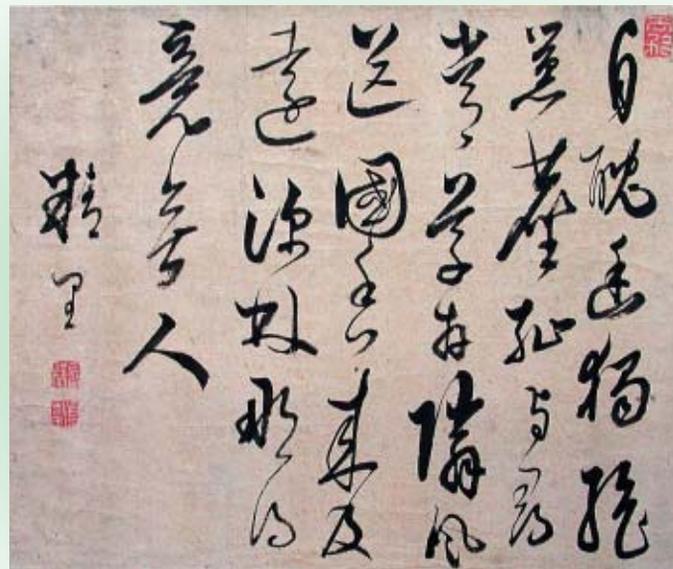


ひかり野

佐賀大学附属図書館報 No.29



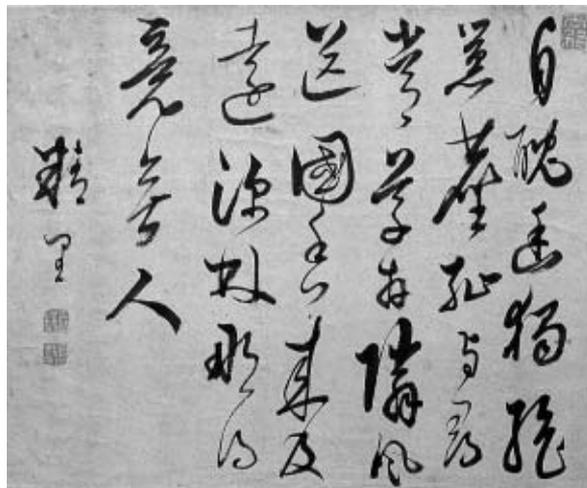
「色紙 古賀精里」 佐賀大学附属図書館蔵市場直次郎コレクション
(解説は最終ページ)

表紙解説

文化教育学部教授 井上敏幸

古賀精里（1750～1817）。通称彌助、字は淳風。精里は号。佐賀藩儒から幕府儒官となり、寛政の三博士としてその名を知られた。長男穀堂は、佐賀藩参政禄、次男西滄は佐賀藩儒、三男侗庵は昌平黌教授。この三兄弟は劉氏三鳳と呼ばれた。

この七言絶句は、「蘭」という題で、『精里集抄』巻二に収まる。ただし、第三行目三字目の「存」は「卉」に改められている。



自耽幽獨絶
鬻塵恥与尋
常草存隣風
送國香來及
遠深林那得
竟無人

蘭は、独りひそかに静けさにふけり、自分から俗世間のうるさを避けようとする。そのため、ほかの草木などと同じように扱われ、それらと一緒にされてしまうことを潔しとしない。ひとたび風が吹いてくると、国中で最も気高い香を、遠くの地まで送り届けるのである。したがって、どのように深い林の中にあっても、ついには人に知られてしまうことになる。